

近代

第13章 第二次大戦と日本 3. 太平洋戦争 (3) 戦時体制下の文化と生活

鳥取県の学徒勤労動員①

鳥取家政高等女学校の三・四年生三三八名が
広島県呉市の広海軍工廠に動員する前に長田神社に参拝



(鳥取敬愛高等学校蔵)

『鳥取家政高等女学校生徒Aさんの動員日記より
(昭和19年10月1日～昭和20年4月18日)』の一部

■昭和19年10月3日(火)
午後1時9分の臨時列車で鳥取を発つ。県立鳥取高女から鳥取駅前まで行進、駅前で県立と市立中・女学校を除く職業中女学校の動員学徒全員の壮行会があり、途中米子淑徳高女の生徒等を乗せながら伯備線経由で広島に向かう。

■10月4日(水) 今晚無事広着。

■10月18日(水)
故郷のことを云われたら皆シクシク泣き出した。ここに来てから大豆が御飯に入っていて、大分腹をこわした人があり食事に大豆が入らなくなった。私の様に街で育った人間は配給生活で米も少なく、いもや南瓜、大根で空腹をみたす状態なので大豆御飯は上等なのだが、農家出身の人は混ぜり物だらけの食事は辛い様だ。

■10月20日(金)
工場裏の海を毎日のように丸四艇が走る。神風特攻隊にも参加したというもの凄いい快速艇である。(略)人間魚雷も造っているらしく工場の一角に囲いをして出入りを厳重にしているところがある。

■10月25日(水)
4時半起床。空訓練あり。その故でもなからうが、10時40分空襲警報。直ちに退避。約1時間で解除。

■10月26日(木)
初めて家から小包が来た。が一々先生の許可がないと室に持ち帰れぬ。手紙も葉書も全部検閲があり工場名、仕事、日付、天候のことは一切書かれぬ。もし、書いても墨で抹消される。

■11月1日(水)
近頃南京虫、しらみ、浴槽にまで浮いているのだからいつ、どこでうつたか…。夜さまよう人がある…とか。(略)恐ろしい噂が立ち始めている。

■11月18日(土)
昨日も今日も警報が出た。よく警報が出るが出た時にはもう頭の上に来ていることが多い。爆弾は斜めに落ちるから頭上にいる時は慌てて居ることはない。

■12月8日(金)
大東亜戦争が始まって3周年。10時頃空襲、すぐ退避に移ったがもう頭上に来て居る。銀色に光る敵機が掌位の大きさで見える。(略)もう皆慣れっこで上ばかり見ている。壕へ走るのも疲れ切ってしまっただんな方がよい…もう動きたくないのだ。

■県内女子学生の動員先

県外	呉海軍工廠	米子高女・倉吉高女(専攻科)
	広海軍工廠	鳥取家政高女・境高女・米子高女・鳥取高女(専攻科)
	玉島航空機工場	根雨高女(専攻科)
	愛知航空・東舞鶴	鳥取師範女子部
県内	日曹製鋼所米子工場、第31海軍航空敵米保分工場、明治機械、米子鐵道管理部、土地改良作業(大高村・巖村)、神戸製鋼上井工場	

解説

■学徒勤労動員とは

学徒勤労動員は太平洋戦争中の労働力不足を補うために、工業や農業生産、土木作業などへの学生・生徒の強制的な動員。すでに日中戦争開戦前の1938(昭和13)年から夏季休暇中の勤労作業が開始。その後、次第に動員の対象・期間・内容が拡大された。とくに戦争末期の1944(昭和19)年の「学徒勤労動員令」により、動員が通年化し、国民学校初等科児童、一部の理科系高等教育機関の学生などを除くほとんどの学生・児童が「勤労即教育」の名の下に動員され、学校教育の機能がほぼ停止した。

■動員数

学校名	県外	県内
鳥取家政高女	338	0
米子女子商業	207	0
境家政高女	105	0
由良高女	100	0
倉吉高女	90	458
鳥取高女	不明	330
米子高女	不明	不明
根雨高女	不明	225
鳥取市立高女	0	449
八頭高女	0	171

学校名	県外	県内
育英中学	215	155
境 中学	205	145
倉吉中学	190	360
鳥取一中	120	350
米子中学	110	370
鳥取二中	95	270
倉吉工業	160	0
米子工業	150	0
鳥取第二工業	145	0
米子農工	120	0

戦時中に学校名を転換させられた学校

- 鳥取商業 → 鳥取第二工業
- 倉吉商業 → 倉吉工業
- 鳥取家政高女 → 鳥取女子商業
- 米子商蚕 → 米子農工学校
- 淑徳高女 → 米子市立女子商業
- 境高女 → 境女子商業

工場労働に必要な技術者を育成するために男子商業学校は工業学校に、高等女学校は女子商業学校に転換させられた。

(担当：小山富見男)

参考資料

『記録 少女たちの勤労動員』—女子学徒・挺身隊勤労動員の实態—戦時下勤労動員少女の会(2013年 西田書店)